

目的 近年母乳栄養児が著しく減少してきている。母親の哺乳行動は本来動物的行動であつて、正常分娩であれば必ず乳汁分泌が充分あるべきものである。したがつて近年のような現象は人間が哺乳動物としての機能を失つてゐるか、著しく低下した状態と見なすことができると考えられる。この問題は単純なストレス説で説明できるものではないので、研究者らは、母乳分泌の状況を、そのバックグラウンドと考えられるファクターと共に確認することを目的として調査を行った。

方法 母乳分泌の現状を明らかにするため、都市部、農村部、急速都市化部、山村部などの地域性、階層性を考慮して調査地域を選定し、留め置き調査、および面接聞き取り調査法によつて行った。

結果・考察 都市、農村における地域間の母乳分泌率について有意な差はなく、各地域全体の母乳分泌率に低下傾向がみられた。都市近郊山村の母乳分泌率が著しく低くなつてゐること(27%)は注目される。1~2世代前の母乳分泌率を調査した結果90%以上という数値が得られ、世代間に相違は見られないという結果から遺伝的要因はないと考えられた。母乳のみで哺育できる乳児が30%以下であるという調査結果から、現代社会における人間の生理的哺育能力低下が乳汁分泌機能低下現象として表われたものであると考察される。したがつて、その低下要因の根本的解明が必要であると考えられる。